

26 聖人の中で、息の絶えるまで“赦し”のメッセージをしていったパウロ三木のことで「殉教」(イザヤ木原真著)より抜粋 1597/2/5、西坂の丘に 26 本の十字架が立てられました。～12 歳のルドビゴ茨木と 13 歳のアントニオが、「主の子どもたちよ。主をほめたたえまつれ。」と、高らかに銀の鈴のような声で、主を賛美します。その声に合わせて、四千人とも言われている見物人たちが一緒に賛美を始めました。その時、西坂に天が降りてきたと言われています。西坂に、天の賛美の音が響き渡ります。それまで極悪犯罪人の死刑執行の場所だった西坂に、天の臨在が注がれ天国が降りてきたのです。その天の臨在に包まれた賛美の中で、十字架から身を乗り出し、人々に向かって大きな声で語りだす者がいました。イエズス会修道士 (イルマン)のパウロ三木でした。

彼は京都で捕らえられてから西坂の丘に着くまで、人々に福音を語り続けて歩いてきました。そして最後の説教が、この十字架の上からでした。彼の罪状書きには、こう書いてありました。「この者共は、フィリピン、ルソンの使節と称して日本に来たり!」それを見てパウロ三木は、人々に向かって叫び語りだしました。「みなさん、私はれっきとした日本人です。イエズス会の修道士で、罪を犯したわけではございません。ただイエス・キリストの福音を宣べ伝え、その教えを広めたために殺されるのです。しかし私は、そのことを喜んでいきます。この殉教の恵みを心から神様に感謝しています。人が死に臨んで、どうして偽りを申しましょう。～この方、イエス・キリスト以外には救いの道はありません。そのことを確信を持って申し上げます。」パウロ三木の語る言葉には力強さと激しさがありました。人々は彼の語る言葉に引き寄せられていきました。さらにパウロ三木は旧友であり、処刑執行の責任者でもある寺沢半三郎の方を見て、言いました。「半三郎、私はあなたのことを赦しています。何も恨んではいません。今まさに私を処刑しようと槍を持っているこの執行人も赦します。あなたの方のことを何も恨んではいません。そして私に処刑を宣告された太閤秀吉様を、私は赦します。恨んではおりませぬ。

それはイエス・キリストが私の罪の身代わりになって十字架にかかり、私を赦して下さったからです。イエス・キリストは「あなたの敵を愛し、迫害する者のために祈れ」と言われました。ですから、私はこの死罪、殉教について太閤様をはじめ、お役人衆たちになんの恨みも抱いてはおりませぬ。ただ私が切に願うのは、太閤様をはじめ、半三郎やお役人様、そして日本のすべての人がキリストを信じて救いを受け、クリシタンになってくださることです。」

TLCCC 主の十字架クリスチャンセンター The Lord's Cross Christian Center

FRH 天に登録されている長子たちの教会

Church of the Firstborn who are Registered in Heaven
主任牧師: イエス・キリスト ノア勝裕 & 和子



Siloam

2018 年 1 月 21 日 No.981



(シロアム: 遣わされた者 ヨハネ 9:7)

新年度の御言葉

マルコによる福音書 11:24

イエスは答えて言われた。

「神を信じなさい。まことに、あなたがたに告げます。

だれでも、この山に向かって、

『動いて、海に入れ。』と言って、

心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおりに

なると信じるなら、そのとおりになります。

だからあなたがたに言うのです。

祈って求めるものは何でも、

すでに受けたと信じなさい。

そうすれば、そのとおりになります。

♪ God is working for my good now , for my good , for my good ,

God is working for my good ,Yes,You really are! ♪

<http://tlcccfhr.astone-blog.jp/>